

科目名	デザインプロセス論演習 [クラフト] (卒業必修)		
授業形態	演習	学年	1
開講時期	2023年度 前期	単位数	2
担当教員	井波 純		
内容および計画	<p>授業内容</p> <p>クラフト分野では、日本の工芸文化を構築してきた漆という素材を用い、実習・演習を中心に2年間という限られた時間の中で、日本の手仕事に対する意識や歴史文化の中のデザインについて理解を深める。デザインプロセス論では、漆塗りの椅子制作を通し、デザイン情報コース内の立体系デザイン（インテリア分野・プロダクト分野）と連携した授業構成をもとに進める。木材加工の基礎技法を習得し、より広がりのある工芸観を育て、将来的に他分野とのコラボレーションの可能性も視野に入れた授業内容とする</p> <p>あらかじめ準備された木製のツールをベースに形態・漆塗りについてデザイン計画を立て、木地制作を行う。木地完成後に漆作業を通し、漆工芸の基礎技術を理解する。</p> <p>漆芸作品の制作には、多くの技術と漆工用具を必要とする。この授業では伝統的な漆工技法を元に素地から塗りに至るまでの基本工程について、漆工用具の種類と扱い方を中心とした演習を行う。デザインプロセス論とともに授業をすすめ、それぞれの工程における漆工用具の扱い方も体得していく。また、地場産業である会津塗の職人工房において漆工技術の見学や漆芸展覧会の見学も取り入れ、より漆工芸に関する理解を深める。</p> <p>授業計画については下記に記載した内容を参考とし、進捗状況に合わせて総合的に進める。</p>		
1	3分野合同での課題出題・自己紹介・作業のすすめ方について等		
2	漆工芸についての理解と椅子の形状、およびデザイン計画の検討		
3	ツール木地制作 木工基礎実習		
4	ツール木地制作 木工基礎実習		
5	ツール木地制作 木工基礎実習		
6	ツール木地制作 木工基礎実習		
7	ツール木地制作(予備日) 木工基礎実習 3分野の進行状況により合同中間発表 漆工芸の基本 漆工用具の種類と使用方法		
8	漆工芸の基本工程（素地固め） 木地固めの意味と技法について		
9	漆工芸の基本工程 漆下地の意味と技法について すり錆地付け		
10	漆工芸の基本工程（下地工程・すり漆） 漆下地の研ぎの意味と技法について 摺り漆について		
11	漆工芸の基本工程（漆塗り工程） 木地溜塗について－木目を活かした漆塗り 黒漆塗りについて－漆塗り工程（下塗り）		
12	漆工芸の基本工程（漆塗り工程） 木地溜塗について－木目を活かした漆塗り		

	黒漆塗りについて－漆塗り工程（中塗り）			
13	漆工芸の基本工程 木地溜塗について－木目を活かした漆塗り 黒漆塗りについて－漆塗り工程（上塗り）			
14	漆工芸の基本工程（装飾工程） 漆で描く文様について（漆絵）			
15	3分野合同による講評会			
<b>教科書</b>				
	<b>タイトル</b>	<b>著者名</b>	<b>出版社</b>	<b>ISBN</b>
使用しない				
<b>参考書</b>	使用しない			
<b>成績評価</b>				
	<b>評価方法</b>			<b>割合(%)</b>
	受講姿勢(道具類の使用方法、作業手順の把握と理解度などをノート提出にて確認)			40
	課題作品の評価（デザインプロセス、完成度等）			40
	プレゼンテーション			20
木工機器や刃物の取り扱いを知ることによって制作の範囲も広がりますが、同時に怪我の危険も伴います。説明をしっかりと理解し安全第一で作業しましょう。大型電動木工機器については教員が取り扱います。				
<b>学習到達目標</b>	平行して進めるデザインプロセス論とともに漆工技法の基礎工程に対する理解を深める。			
<b>先修条件</b>				
<b>実務経験</b>	実務経験あり：素地制作から漆塗り、漆芸装飾に至るまで石川県輪島市、および東京都において実務経験を積み、作品制作を中心に活動してきた経歴も活かしながら、シラバスに沿った授業において理解を深めより完成度の高い研究作品の制作につなげていく。			
<b>その他</b>				